

# マメハモグリバエの採卵法

溝口大輝・坂崎春菜・田上陽介・西東力（静大・農）

マメハモグリバエ *Liriomyza trifolii* (Burgess) は多種多様な園芸作物の重要害虫である。本種の飼育は一般に鉢植えのインゲンマメを用いて行われているが、人工飼料による飼育法が開発されれば、生理学的な研究をはじめ、様々な研究に活用できる。本研究ではその第一歩として採卵法を検討した。

## <材料及び方法>

供試虫：マメハモグリバエ

採卵法：採卵装置（第1図）は、ガラス管（直径2cm×長さ2.5cm）の上面にノビックスを張り、シヨ糖液(0, 5, 10, 30%)を0.5mlほど滴下したのち、別のノビックスで覆ったものである。装置の下面はゴースで覆った。ここに、鉢植えのインゲンマメで飼育（0～6日間）した成虫を投入し、毎日、産卵数を調べた。

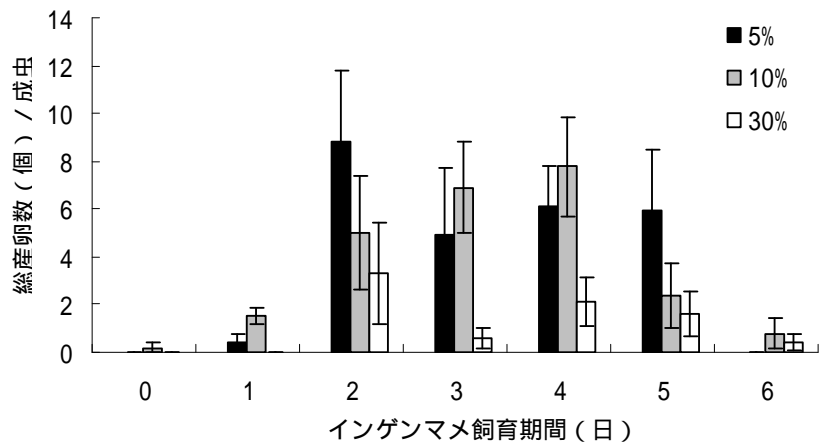
## <結果及び考察>

産卵数が最も多かった組み合わせはインゲンマメ飼育2日成虫 + 5%シヨ糖液であった(8.8個/匹)。次いで、インゲン飼育4日成虫 + 10%シヨ糖液であった(7.8個/匹)。どの組み合わせでも、産卵は7日間ほどで完了した。水にはまったく産卵しなかった。5%および10%シヨ糖液中のふ化率は概ね70%以上であったが、30%シヨ糖液中のふ化率は50%以下であった。

以上の結果から、本装置（インゲンマメ飼育2～4日成虫 + 5～10%シヨ糖液）を用いてマメハモグリバエの卵を容易に採集できることが明らかとなった。



第1図 採卵装置



第2図 インゲンマメ飼育期間とシヨ糖濃度が産卵数に及ぼす影響

第1表 採卵装置内のふ化率(%)

インゲンマメ飼育期間(日)	シヨ糖濃度(%)		
	5	10	30
0	産卵なし	0	産卵なし
1	0	0	産卵なし
2	55.8	86.5	29.5
3	65.8	72.2	41.7
4	86.6	89.5	47.6
5	78.5	75.1	44.3
6	産卵なし	42.9	28.6